第 138 回ＢＩＥ総会
「愛・地球博」の成果報告

2005 年 12 月 1 日 Palais des Congre
(財)2005 年日本国際博覧会協会
事務総長　　中村　利雄

冒頭挨拶

呉議長、ロセルタレス事務局長、総会にご列席の皆様方に、愛・地球博の成果を報告できる機会を与えて頂き、光栄に存じます。

愛・地球博は、大きな事故もなく、無事成功裡に終了いたしました。125 の公式参加者と多数の一般参加者のご尽力とご支援はもとより、この愛・地球博に対してＢＩＥからいただいたご指導とご協力に対し、ここで改めて感謝を申し上げます。

愛・地球博がここまで辿った道は決して平坦ではありませんでした。20 世紀後半には、国際博覧会の存在理由までが問われるという厳しい状況でした。こうした中で、21 世紀に初めて開催される愛・地球博が、国際博覧会の存在意義を示し、これに続く国際博覧会のモデルの一つになることが求められているというプレッシャーを真剣に感じました。

我々は、1994 年 BIE 総会決議が意味するところを真剣に考え、21 世紀の人類社会が直面する課題を解決していくことに貢献する国際博覧会になることを目指すに至ったわけです。その結果、愛・地球博はテーマ重視のアプローチと成らざるを得ず、また、この総会決議にある諸要素、即ち、高い価値と広範な影響力を持つこと、途上国支援、BIE の関与、商業主義の排除、及び適切な跡地利用、を十分に満足するものとなるように努力した次第です。

この挑戦の内容と達成された成果については、現在とりまとめている公式記録に詳細に記述するつもりですが、本日は、このうち、特に、高い価値と広範な影響力、運営面での努力、財政、地球社会への遺産という 4 点について、皆様に報告することにします。

高い価値と広範な影響力

愛・地球博がテーマに掲げた「自然の叡智」とは、自然の摂理に謙虚に学び、持続可能な社会を創造することと理解されています。このテーマを博物館やテーマパークとは異なる、まさに博覧会でなければできない方法で、具体的にどのように表現し、多くの人々にインパクトを与えるか、これは極めて難しい課題でありました。愛・地球博は、これを全身で、即ち、会場、各パビリオンでの展示、イベント、運営の全ての面で、主催者はもとより、参加者全員が追求し、多くの成果を上げたと言えます

では、愛・地球博では、具体的に、どのようにテーマが表現されたのでしょうか。

まず、第一に、最先端技術が地球的課題の解決に役立つということを示したことです。

来場者は、会場内で自分達が出したゴミを原料にした燃料電池や太陽光発電を用いた新エネルギー発電システムを会場の至る所で目にしました。立ち寄った飲食施設で、新たな環境技術から生まれた生分解性プラスティック（バイオマス）食器を使って、食事をしました。来場者は、新技術が生み出す環境に優しい未来の社会を一足先に体験したわけです。愛・地球博で試された様々な先端技術は、近い将来、実用化され、地球的課題解決の上で、大きな役割を果たすことでしょう。

次に、第二は、自然や環境に配慮した新たな社会行動や社会システムを会場内で採用し人々の意識やライフスタイルを変革したことです。

来場者は、ゴミひとつ落ちていない会場にすがすがしい思いを持ったことでしょう。同時に、清掃スタッフやボランティアの手を借りながら、ゴミの９分別を会場で体験しました。買い物の際にプラスティック袋（レジ袋）を使用しないなどの環境に配慮した行動をとることによって、ポイントが溜まっていくエコマネーという一種の擬似通貨で、植林などの森林保護活動等への寄付をするといった初めての体験をした来場者も少なくありません。

第三に、こうした具体的な解決策の提示と同時に、愛・地球博が成し遂げたもうひとつの成果は、地球的課題を解決するための連帯感が醸成されたことだと自負してい

ます。

外国パビリオンを訪れた人々は、出展物のみならず、各国の人々との直接的な交流を通して、自分達が、多様な文化や自然、そして歴史をもった世界の多くの人々と一緒に生きていることを感じたことでしょう。同時に、その多様な人々が、愛・地球博という場で、地球的課題を解決するために、心を合わせて、その国の自然、歴史、文化から生まれた智慧を結集しているということに強い連帯感や絆を感じた人々が多かったのではないでしょうか。

最後にボランティア、NGO、市民団体の参加は、来場者一人一人が、自分達にも地球的問題解決のためにできることがある、と感じさせるものでした。

一所懸命ゴミの分別の手伝いし、障害者の方々などの移動に付き添うボランティアの方々の姿に心打たれた来場者も多いし、自然保護活動を含めた様々なNGO/NPOの出展を見て、自分の身近にすでにこのように活動をしている人々がいることを知って驚いた人々も多かったでしょう。そして、一歩踏み出せば、自分もそのような活動に参加し、地球的課題に取り組むことができることを多くの来場者が知り得たことも、愛・地球博の成果だったといえます。

愛・地球博に来場した10代の男女671名へのアンケート調査によれば、以上述べたどの領域においても、90％以上が実感・理解を示し、95％の者が今後積極的に関わっていきたいと回答しており、行動喚起が促されていることが示されています。愛・地球博で蒔かれた種を、子ども達一人一人は確かに受け取ってくれました。この種は、この子ども達の手できっと、これから、花をさかせ、豊かな果実を実らせることと確信しています。

愛・地球博は、国際社会の多様性を代表する広範な参加を得るとともに、大きな国際的影響力をもちました。具体的には、首相級以上の来日が48カ国、閣僚級が195回、それ以外の外国要人の視察が268回に及びました。

開幕直前のプレスプレビューから閉幕までの間、海外から７５カ国約３８０メディア約１，８００人の海外プレスの方々に来場・取材していただき、国際コミュニケーションの面では大きな成果を収めたと考えております。

運営面での努力

以上述べたように、愛・地球博が成功を享受できた背景には、開催者のみならず公式参加者をはじめとする関係者全員による、準備段階から閉幕に至るまでの運営面での努力を忘れることはできません。いくら良いテーマが選定され、立派な構想が策定されようとも、これらを実施に移す運営が円滑に行われない限り、万博の成功は得られないのです。

愛・地球博が達成した成果をご紹介した後は、この成果を達成するために行われた運営面での努力について、ご説明したいと思います。

開催者は、会場整備、会場管理、輸送・通関、広報、その他博覧会の準備、運営の各分野を専門的に担当する部局とともに、参加者に個別に対応することを専門に担当する窓口部局を設けて、参加者のニーズに対応する体制を組織しました。

特に、外国の公式参加者に対しては、陳列区域政府代表団の運営委員会とのコミュニケーションを維持して、参加者共通に抱える諸問題に、できるだけ迅速に対応できるように努めました。運営委員会は、14 回の会合を重ね、毎回我々は示唆に富んだ助言をいただきました。この運営委員会の最終報告書においても、我々開催者を信頼できる相手として認めていただき、我々の的確な対応を評価しつつ、この博覧会は大成功を収めたと結論いただきました。光栄の限りです。

こうした運営面での努力に関して、我々開催者の経験から得られた教訓をご紹介させていただきたいと思います。

まず、第一は、切れ目なく発生する課題を効率的に解決していくプロジェクト組織／タスクフォースの存在です。この組織には、operation level まで即断即決できるリーダーシップと、それを献身的に実行していく専任のスタッフが必要不可欠です。

これに加えて、そもそも我々は万博に関してはアマチュアであり、その計画時に不完全な部分があるのは当たり前だと考えていました。そのため、問題が生じた際には柔軟に対処する準備ができており、タスクフォースはうまく機能したと思います。

次に、BIE 事務局や運営委員会等国際社会からの適切な助言を真摯に受け止め、迅速に実行することが必要なことは論を待ちません。

最後に、完全な情報公開とメディアとの良好なコミュニケーションです。世論との

間で適切な緊張関係をもつことは、行動に規律を与え、運営を適正化させるからです。そして、何よりも重要なことは、世論に支持されてこそ万博の成功があるのです。

財政

博覧会の開催にあたり開催者が抱える重要な問題は、開催コストに対する資金計画です。主な財源は、政府から提供を受ける補助金のほか、入場料収入、産業界等からの寄付でした。開催者にとって、開催の数年前から始まる準備に必要な資金手当上のリスクは決して少なくありません。このため、開催者にとって経営管理が極めて重要な業務になります。愛・地球博では、最大の収入源である日本政府の財政支援のおかげで、このようなリスクを最小限にすることができました。日本政府からは、建設費の補助、途上国支援、国際広報の充実などに資金負担をして頂きました。

我々の収支バランスは、日本政府からの支援や当初予想していた 1500 万人をはるかに上回る 2200 万人という入場者数の大幅な増加のおかげで、かなり良好なものであると認識しております。

最終決算は、３R の原則に則って行われる撤去工事に大きく左右されるため、まだ正確な数字は出ておりませんが、いずれ、BIE に公式記録として報告したいと思います。

地球社会への遺産

最後に、愛・地球博が地球社会に残す遺産について触れておきたいと思います。

当然ながら、愛・地球博は地球社会を中心に開催地日本に有形の遺産を数多く残すことになります。愛・地球博の会場は、もとの自然公園に完全な形で戻され、新たな公園として利用されます。

しかしながら、最も重要なのは、目に見えない無形の遺産です。21 世紀を担う青少年達は、愛・地球博で多くのことを学び、それぞれのやり方で地球的課題の解決に向けた行動を展開していくことでしょう。また、万博史上初めてとなった NGO や市民の参加は、愛・地球博の公式参加者スタッフのみならず、多くの参加者や来場者を含めた形で国際的なネットワークを形成し、より大きな活動へと動き出しています。

愛・地球博は、最先端技術と新たな社会システムの有用性を認識させ、技術と社会システムがより機能する仕組みを体感させ、人々の意識の変化と人々の行動喚起の契

機となりました。今後、愛・地球博が掲げた目標である持続可能な社会の創造に向けて、より具体的な道筋を示していくことが求められております

これに加えて、我々万博共同体(“BIE Community”) は、21 世紀の国際博覧会が地球的規模の課題解決に貢献できる存在であることを世界にもっとアピールしていくことが必要ではないでしょうか。たとえば、国連がこれまで提唱してきた各種の「持続可能な開発」に関する政策の実現に対して、愛・地球博はある種の貢献のあり方を示せたのではないでしょうか。愛・地球博の国際諮問委員会からは、G８サミットに対して、我々から提言を行うなど存在感をアピールすべきであるとの意見も頂いております。万博共同体(“BIE Community”) と、国連やG８サミットのような他の地球的課題解決のための国際的な場との一層の連携を模索するという点で、貴重な示唆を、この場の皆様から与えられることと期待しております。

最後に（結び）

私の報告を終えるにあたり、再度、愛・地球博の成功に力を貸していただいた皆様に感謝を申し上げます。

チェンマイ、サラゴサ、上海と続く今後の万博の更なる発展を祈念して、私の報告を終えたいと思います。

それでは、今からビデオを上映しますので、皆さんと一緒に作り上げた愛・地球博の思い出に、皆さんと一緒に浸りたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

以上